

3つのキーワードに基づく学級づくりをオール天草で



（1）自己決定の場を設ける

（「生徒指導リーフ（特別活動と生徒指導）」国立教育政策研究所から）

子どもが考え、判断し、自分勝手ではなく、他者と自分を中心に据えながら自分で決めて実行できる場を意図的に設定します。このことが、子どもの「自分のことは自分で決めて実行する」という気持ちを育てることにつながります。

（2）自己存在感（有用感）を与える

一人一人をかけがえない存在として捉え、その個別性や独自性を大切にしていくことが重要です。このことが、子どもの「やればできる」という気持ちを育てることにつながります。

（3）共感的人間関係を育成する

子どものありのままを受け止め、人と人という関係をつくり出すことが大切です。このことが、「自分は周りの人から受け入れられている」という気持ちを育てることにつながります。

3つキーワードの意義と授業等での取組事例

（令和元年度宇城教育から）

3つのキーワード	意 義	授業等での取組事例
自己決定	自分自身が事柄や行動を 選択・決定 する際には自らに責任が生じ主体的に思考し判断する能力が育成される。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動において、子どもが自ら意思決定・選択する機会を設定する。 ・考えや思いを表現する機会を設定する。 ・話し合いや交流の前に、まず自分の考え方をもつ時間を確保する。 ・子どもの実態を踏まえ、複数の課題(教材)を準備して選択の幅を広げる。
自己存在感 (自己有用感)	自分はかけがえない価値ある存在であると感じること。人の役に立った、人に喜んでもらったなど他者との関わりの中で生まれる 自己有用感 を味わう体験は、 自己存在感 につながる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の持ち味を把握し、一人一人が活躍する場を設け、成就感を味わえるようにする。 ・個々の学習意欲や習熟度を把握し、課題やヒントの提示を工夫する。 ・子どもの発言を無視しない。 ・学習の成果が実感できる振り返り活動を設定する。 ・結果のみではなく、思考や学習の過程を認め励まし、プラス評価をする。
共感的人間関係	ありのままに自身を語り、 共感的に理解し合う 温かく受容的な人間関係は、相互に人間として無条件に尊重し合う態度が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗や弱さなど、人間の不完全さを認識させ他者の気持ちや立場に立って、自分の言動を選択する態度を育てる。 ・互いの人間性を認め、発言を最後まで聞く習慣や相手への返しを大切にさせる。 ・互いの違い(多様性)を肯定的に受け止め、一人でできないことを分担したり、協力したりすることでお互いを尊重し、成し遂げられた喜びを実感させる。 ・交流活動の中から新しい考え方が生まれ、話し合っよよかったと実感できるようにする。